

令和5年度 学力向上指導改善プラン

ひまわり特別支援学校長 山口 貴久

学校教育目標		4月		2～3月		
		推進主体	成果となる目標	具体的な行動目標	年度末評価	評価
<p>人との豊かなつながりの中で、一人一人の自立と社会参加を目指し、たくましく生きる力を育成する</p>		校務運営委員会・各種委員会・担当者会・研究部会				
<p>学力に関する前年度の状況・経年の課題等</p>			(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
<p>学 力 の 状 況</p>	<p>自立活動の評価において3観点(①知識・技能の習得②思考力・判断力・表現力の育成③学びに向かう力、人間性の涵養)を踏まえて評価をするとともに、教科との関連性を意識する必要がある。</p>	<p>【教育課程】 3つの観点からの個々に応じた指導実践が可能となる、教科等を意識したカリキュラムを再構築する。</p>	<p>教科等を意識した指導となるよう個別の指導計画を作成する。</p>	<p>作成した指導計画に基づき指導・評価し、個別の指導計画の見直しを行う。</p>		
	<p>運動動作面における指導と評価の一体化を更に目指し、目標と期間を明確化し、年間を通じたPDCAサイクルを踏まえた取り組みを進める必要がある。</p>	<p>【身体の動き】 からだの学習の目標と期間を明確化し、児童生徒にとって日常生活に必要な姿容を目指す。</p>	<p>短期目標と長期目標を設定し、その都度評価を行い、課題解決までの具体的なビジョンを明示し実践する。</p>	<p>からだの学習における具体的な到達目標をルーム及び学部で共有する。日常的に動画等で学習の様子を記録し、自己評価、他者評価をし、授業の改善を図る。</p>		
	<p>教員の指導力を向上させ、的確なアセスメント、指導目標、方法、評価を共有しながら主体的な学びを創造する研究を進める。</p>	<p>【コミュニケーション】 表出手段の獲得を目指した取り組みを確立するために、細やかなアセスメントを実施することで児童生徒個々に応じた指導・支援の方法を明らかにする。</p>	<p>個々の児童生徒が小集団の中で、自分にあつた表出手段で表現する。</p>	<p>的確なアセスメントを実施し、定型発達と個の障害特性を発達段階を捉え、表出手段の獲得を目指す。また、活用できる補助器具を探る。</p>		
	<p>交流及び共同学習を推進するために、コロナ禍以前の取り組みを振り返り、併設校・居住地校との交流、事業所との連携を今一度深め、目標と手立ての共有を図ることが必要である。</p>	<p>【交流及び共同学習】 引き続き感染症対策を十分に行い、交流及び共同学習の実施方法を工夫する。</p>	<p>交流を通してターゲット課題を共有する。</p>	<p>交流校と連携を密にし、直接交流に向けてスケジュールを立て、段階的に実践する。オンライン授業や手紙、通信など双方向でやり取りをし、間接交流の工夫を進める。</p>		
	<p>教職員、保護者の進路に対する意識向上を図るために、市内の高等部卒業後の進路の現況を知ることが必要である。</p>	<p>【進路】 卒業後の生活を見据えて、個々の児童生徒につけるべき力を検討する。高等部卒業生の追指導を充実させる。</p>	<p>進路の情報を教職員・保護者が共有する。</p>	<p>感染状況を踏まえながら進路研修を行い、積極的に新規福祉事業所の開拓を行う。また高等部卒業生の追指導を行い情報の共有を行う。</p>		
<p>学 力 向 上 に 関 連 する 学 習 状 況 ・ 生 活</p>	<p>感染症対策を維持させ、摂食指導時の衛生面での配慮を行い、個々の実態に応じた摂食指導に関する専門的スキルを身に着ける必要がある。</p>	<p>【健康の保持】 個々の児童生徒の摂食状況を丁寧に保護者、関係各機関との情報共有を密に行つたうえでアセスメントを行い、具体的な目標設定を行う。</p>	<p>個々の実態に応じた支援を行い摂食のスキルが向上する。</p>	<p>個々の児童生徒の実態に応じた摂食指導をチームで実施する。摂食指導を行う教室の安全・安心な環境設定を図る。</p>		
	<p>安心安全な医療的ケアの実施はもちろん、基礎疾患を持つ児童生徒や体調管理が難しい児童生徒が多く在籍する本校において、引き続き感染症拡大防止を進める必要がある。</p>	<p>【健康の保持】 医療的ケアに関する研修を充実させるとともに、職員全体のコミュニケーションと共有を図る。</p>	<p>医療的ケアについての知識理解を深め、適切かつ確実なケアを行う。</p>	<p>外部講師による研修会を開く。医療的ケアサポート会議等で看護職員と教員との共通理解を探る。ヒヤリハット事例についてこまめにケース会議を開き、職員で共有する。</p>		
<p>校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況</p>	<p>校内研究の状況</p>	<p>【研究】 子どもの実態に応じた質の高い授業を行うために、日常的に授業の評価・改善を行う。</p>	<p>日ごろから適切なアセスメントを行うことで、指導・支援を充実させる。</p>	<p>日常的にチームで授業を振り返り、指導改善を行う。授業研究会を実施し、外部から評価を受ける。</p>		
	<p>校内研修の状況</p>	<p>【危機管理】 安全確保に向けた緊急対応訓練の実施と具体的なシミュレーションを行う。</p>	<p>災害時や不審者侵入、体調急変時の救急対応ができる力を身につける。</p>	<p>緊急時を設定した、シミュレーション訓練を行い、あらゆる場面でも対応できるようスキルを身に着ける。災害時や緊急時のマニュアル、必要備品等の整備を精査し整備する。</p>		
<p>家 庭 ・ 校 種 間 連 携</p>	<p>家庭・地域等の状況</p>	<p>【開かれた学校】 保護者との目標共有を図る。放課後等デイサービスとの情報共有を進める。地域人材との活用を目指す。</p>	<p>情報提供する機会、意見交流する機会を増やす。</p>	<p>学校運営協議会、保護者全体懇談会やニーズにあった研修会を開催する。事業所連絡会を開催し、福祉との連携を図る。オンラインを使った会議の開催等、コロナ禍での保護者との情報共有の機会を作る。</p>		
	<p>小・中・高における教科連携等の状況</p>	<p>【センター的機能】 市立の特別支援学校ならではのネットワークを利用したきめ細やかな相談支援を充実する。</p>	<p>コロナ禍以前の件数を参考にし、年間の相談件数を想定して準備をする。</p>	<p>相談会、研修会を発信・案内し、相談後のアフターフォローを行っていく。</p>		
	<p>キャリア教育の全体計画を見直し、基礎的汎用的能力と個別の指導計画との関連性を見出し、キャリア教育の研修のあり方を検討する必要がある。</p>	<p>【社会参加】 卒業後の生活を具体的にイメージし、各学部間で将来像の共有化を図り、体系的なキャリア教育を推進する。</p>	<p>高等部卒業後を見据え、個別の指導計画の重点目標の見直しを図る。</p>	<p>キャリア教育全体計画から、個々のキャリア教育の計画を作成し、個別の指導計画に反映させる。</p>		